



いよいよ明日(8月22日)から、さいたま市において 「防災フェア2008 in さいたま」を開催(第3報)

8月30日(土)から9月5日(金)までは防災週間です(昭和57年閣議了解)。
この期間を中心に、全国各地で講演会、展示会、防災訓練など、国民の防災意識の高揚と、防災知識の普及・啓発のための様々な取組が行われます。
この防災週間の主要行事として、内閣府、さいたま市、防災推進協議会の共同開催で、8月22日(金)から下記のとおり「防災フェア2008 in さいたま」を開催します。
27回目となる本年のフェアは、国民一人ひとりが災害への備えを日々の生活の中で実践することを促すため、特に市民参加型・体験型のイベントを充実することとしています。
詳細は次のホームページからもご覧いただけます。皆様のご来場をお待ちしております。

<http://www.bousai.go.jp/fair2008/>

記

1. 期間等

平成20年8月22日(金)～8月25日(月)

テーマ:「今こそ、災害への関心を自助・共助の行動へとつなげよう！」
～あなたの行動と地域のつながりで高める防災力～

2. 会場

さいたま市大宮区 大宮ソニックシティ周辺

3. 主催等

主催:防災フェア2008実行委員会(内閣府、さいたま市、防災推進協議会)
(※ 防災推進協議会は昭和57年設立、日本赤十字社など70団体で構成)

後援:警察庁、総務省、総務省消防庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、
経済産業省、国土交通省、気象庁、海上保安庁、防衛省、埼玉県

協力:国土交通省関東地方整備局、熊谷地方气象台、埼玉県、埼玉県警察本部、
東日本電信電話株式会社埼玉支店、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ、

日本赤十字社埼玉県支部、日本放送協会さいたま放送局、東京ガス株式会社埼玉支店、東京電力株式会社さいたま支社、さいたま商工会議所、東日本旅客鉄道株式会社大宮支社、社団法人関東建設弘済会

4. 事業概要 別添のとおり

○ オープニングセレモニー

日時 : 8月22日(金) 14:00～

場所 : 大宮ソニックシティ イベント広場ステージ

出席予定者: さいたま市長、防災推進協議会会長(日本赤十字社社長)、
内閣府政策統括官(防災担当)等を予定

5. コンセプト

○ 今年のフェアは、新しい取組として次の視点を取り入れ、市民に親しみやすいものとする。

- ・市民との直接対話を取り入れる
- ・体験型、参加型のイベントを充実
- ・青少年が興味を持てる内容を強化
- ・被災地の現状を伝える
- ・国際的な視点を取り入れる
- ・最新のITを活用する

(例) 防災の専門家による市民講座

普段会えない人、意外性のある人によるトークイベント

中学生との対話

〔本件問い合わせ先〕

内閣府政策統括官(防災担当) 付

参事官(災害予防担当) 付 大川、鈴木、竹内

Tel 03-3503-9394(直) Fax 03-3581-8933

防災フェア2008 in さいたま

入場無料

8月22日(金) 2008 25日(月)

防災の知識を
深めよう!!



会場：大宮ソニックシティ（イベント広場・第1展示場・国際会議室・小ホール）、鐘塚公園

今こそ、災害への関心を自助・共助の行動へとつなげよう！

～あなたの行動と地域のつながりで高める防災力～



楽しいイベントを体験しよう!

主なイベント

防災の実践的知識を学ぶ(自助)

共助・公助の取組を知る

災害についての認識を深め、防災意識を高める

8/23 日本赤十字社埼玉県支部主催イベント

11:00～ 第1展示場
ミヤンマー・サイクロン災害 救援活動報告
応急手当講習紹介

防災集中講座

13:30～ 国際会議室
「地震発生のメカニズム、
どこで、どんな大地震が発生するのか」
講師/翠川三郎氏(東京工業大学大学院教授)
「過去の災害に学ぶ(関東大震災から学ぶ)」
講師/鈴木淳氏(東京大学大学院准教授)
「家庭で職場で災害にどう備えるか」
講師/国崎信江氏(危機管理アドバイザー)

8/23 災害最前線からのメッセージ

13:00～ 第1展示場
災害の第一線で活躍する人々との対話
国際緊急援助隊(救助チーム・医療チーム)、
消防士、警察官、自衛官

8/24 被災者の実体験を聞く

10:00～ 第1展示場
「過去の災害に学ぶ」語り部/かたりすと/平野啓子氏
中越、中越沖、能登半島地震体験者

8/23 シンポジウム「日本の災害対策を考える」

10:00～ 小ホール
講師/伊藤和明氏(NPO法人防災情報機構会長)
重川希志依氏(富士常葉大学大学院教授)
山崎登氏(日本放送協会解説主幹)

映画上映会「マリと子犬の物語」

14:30～ 小ホール
現地活動者(さいたま市消防局職員)による活動報告+映画上映会

8/24 防災講演会「天気から読み取る災害の知識と行動とは」

10:00～ 小ホール
講師/真壁京子氏(気象予報士)

イベント開催時間

8/22(金) 14:00～17:00
8/23(金) 10:00～17:00
8/24(日) 10:00～17:00
8/25(日) 10:00～15:00

防災グッズも買えるよ

全期間開催 8月22日～25日 防災体験ラリー イベント広場 第1展示場 鐘塚公園 防災ポスターコンクール入賞作品展、災害写真展、防災パネル展 第1展示場

主催 「防災フェア2008」実行委員会(内閣府・さいたま市・防災推進協議会)

後援 警察庁、総務省、総務省消防庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、気象庁、海上保安庁、防衛省、埼玉県

協力団体 国土交通省関東地方整備局、熊谷地方气象台、埼玉県、埼玉県警察本部、東日本電信電話株式会社埼玉支店、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ、日本赤十字社埼玉県支部、日本放送協会さいたま放送局、東京ガス株式会社埼玉支店、東京電力株式会社さいたま支社、さいたま商工会議所、東日本旅客鉄道株式会社大宮支社、社団法人関東建設弘済会

お問い合わせ 「防災フェア2008」実行委員会(さいたま市総務局危機管理部防災課内) TEL.048-829-1126 FAX.048-829-1978

同時開催 全国防災まちづくりフォーラム 日時:8月24日(日) 13:00～ 場所:国際会議室
防災講演会「埼玉の地域防災力の向上に向けて」日時:8月24日(日) 13:15～ 場所:小ホール(主催/国土交通省関東地方整備局)

※イベントプログラム、実施場所、防災体験ラリーポイントは変更になる場合がございます。※防災体験ラリーは賞品がなくなり次第終了とさせていただきます。
※お車でのご来場はご遠慮ください。

主なイベントのごあんない

8/22 (金) 14:00 ~17:00	14:00~ オープニングセレモニー 防災担当大臣、さいたま市長、防災推進協議会 会長(日本赤十字社社長)、埼玉県知事、さいたま市議会議長 他出席(予定)	大宮ソニックシティ イベント広場
	14:30~ さいたま市消防音楽隊の演奏	
8/23 (土) 10:00 ~17:00	10:00~ さいたま市立栄小学校管楽器クラブ演奏会	大宮ソニックシティ イベント広場
	10:00~ シンポジウム「日本の災害対策を考える」 ●講師:伊藤和明氏(NPO法人防災情報機構会長) 重川希志依氏(富士常葉大学大学院教授) 山崎登氏(日本放送協会解説主幹)	大宮ソニックシティ 小ホール
	11:00~ 日本赤十字社埼玉県支部主催イベント ●ミャンマー・サイクロン災害 救援活動報告 ●応急手当講習紹介	大宮ソニックシティ 第1展示場
	13:00~ 災害最前線からのメッセージ 災害の第一線で活躍する人々との対話 国際緊急援助隊(救助チーム・医療チーム) 消防士、警察官、自衛官	大宮ソニックシティ 第1展示場
	13:30~ 防災集中講座(防災についての講座と対話) ※全講座を受講された方には「修了証」を発行します。 「地震発生のメカニズム、どこで、どんな大地震が発生するのか」 ●講師:翠川三郎氏(東京工業大学大学院教授) 「過去の災害に学ぶ(関東大震災から学ぶ)」 ●講師:鈴木 淳氏(東京大学大学院准教授) 「家庭で職場で災害にどう備えるか」 ●講師:国崎信江氏(危機管理アドバイザー)	大宮ソニックシティ 国際会議室
14:30~ 映画上映会「マリと子犬の物語」 現地活動者(さいたま市消防局職員)による活動報告+映画上映会 ●監督:猪股隆一 ●原作:桑原真二 大野一興「山古志村のマリと三匹の子犬」(文藝春秋刊) ●出演:船越英一郎 松本明子 高嶋政伸 宇津井健	大宮ソニックシティ 小ホール	
8/24 (日) 10:00 ~17:00	10:00~ 被災者の実体験を聞く ●中越、中越沖、能登半島地震体験者 ●語り部・かたりすと:平野啓子氏「過去の災害に学ぶ」	大宮ソニックシティ 第1展示場
	10:00~ 防災講演会「天気から読み取る災害の知識と行動とは」 ●講師:真壁京子氏(気象予報士)	大宮ソニックシティ 小ホール
	11:00~ 14:00~ トミカヒーローレスキューフォースショー	大宮ソニックシティ イベント広場
	13:00~ 内閣府の防災教室 内閣府(防災担当)と地元中学生との対話	大宮ソニックシティ 第1展示場
	13:00~ 全国防災まちづくりフォーラム	大宮ソニックシティ 国際会議室
	13:15~ 防災講演会「埼玉の地域防災力の向上に向けて」 特定非営利活動法人・ボランティア団体の活動報告 ●講師:平井邦彦氏(長岡造形大学教授)ほか	大宮ソニックシティ 小ホール
15:30~ さいたま市消防局救急課による講習会 ●心肺蘇生法、応急救護体験、AED取扱体験 など	大宮ソニックシティ 第1展示場	
8/25 (月) 10:00 ~15:00	10:00~ さいたま市立大成小学校金管バンド演奏会	大宮ソニックシティ イベント広場
	11:30~ さいたま市消防局救急課による講習会 ●心肺蘇生法、応急救護体験、AED取扱体験 など	大宮ソニックシティ 第1展示場
	14:00~ フィナーレ 主催者あいさつ、さいたま市消防音楽隊の演奏	大宮ソニックシティ イベント広場

22 >>> 25
(金) (月)

期間中毎日開催!

防災体験ラリー

会場内のイベントを体験して記念品をもらおう!

22 >>> 24
(金) (日)

車両展示

はしご車、起震車、救助工作車、降雨体験車、土砂災害体験車(展示車両については、日替わりとなります)



会場案内図



防災フェア in さいたま

今こそ、災害への関心を自助・共助の行動へとつなげよう！

～あなたの行動と地域のつながりで高める防災力～

防災シンポジウム、防災集中講座の全体概要

◎防災シンポジウム「日本の災害対策を考える」

災害についての認識を深め、防災意識を高める（3連続講演）

○開催日時 8月23日（土）10：00～12：40

○開催場所 埼玉県さいたま市・大宮ソニックシティホール2階 小ホール

○主催 内閣府・さいたま市・防災推進協議会

○タイム・スケジュール

・10:00～10:05 主催者あいさつ 内閣府参事官（災害予防担当）田尻 直人

・10:05～10:50 講演テーマ「歴史に学ぶ震災への備え」

特定非営利活動法人 防災情報機構会長 伊藤和明 氏

（概要）『首都圏直下地震が切迫しているといわれる。そのモデルとされる 1855 年安政江戸地震(M7.0～7.1)では、約 1 万人が犠牲となり、現在の埼玉県下でも、中南部で大きな被害がでた。また 1931 年西埼玉地震(M6.9)でも、県中部・西部を中心に 200 棟あまりが全壊、死者 16 人を数えている。・・・』

・11:00～11:45 講演テーマ「防災に対して、いま求められている女性像とはどのようなものか」

富士常葉大学 大学院 環境防災研究科 教授 重川希志依 氏

（概要）『女性の職場への進出、少子高齢化など、日本の社会の構造は大きく変化している。そのような中で、女性や子ども、高齢者など、これまで助けられる側と考えられていた立場の人たちが、防災に果たす役割は今後ますます重要になってくることが予想される。・・・』

・11:55～12:40 講演テーマ「地域の防災の力を高めるために」

日本放送協会 解説主幹 山崎 登 氏

（概要）『我が国では、大規模地震発生の切迫性が高まっている中、防災対策の実効性をこれまで以上に高めることが急務となっている。また、近年、世界的な大規模水害が多発し、我が国でも豪雨の発生頻度が近年増加傾向にあり、風水害の頻発・激甚化などの懸念が指摘されている。国民の防災意識をいかにして実際の防災行動へとつなげるか。・・・』

◎防災集中講座

防災の実践的知識を学ぶ（自助）（講師とのQ & Aによる直接対話）

○開催日時 8月23日（土）13：30～16：05

○開催場所 埼玉県さいたま市・大宮ソニックシティホール4階 **国際会議室**

○主催 内閣府・さいたま市・防災推進協議会

○タイム・スケジュール

- ・13:30～14:15 講座テーマ「地震発生のメカニズム、どこで、どんな大地震が発生するのか」

東京工業大学 大学院総合理工学研究科 人間環境システム専攻
教授 翠川 三郎 氏

（概要）『四川大地震や岩手・宮城内陸地震により大きな被害が発生しているが、大規模地震発生の切迫性が高まっている中、我が国において、どこで・どのような大地震が心配されているか、また一度、大地震が起きるとどのような被害や揺れに襲われるのか、揺れやすく被害を受けやすい場所はどのようなところなのかについて一般者が実践的な知識を学べる。』

- ・14:25～15:10 講座テーマ「過去の災害に学ぶ（関東大震災から学ぶ）」

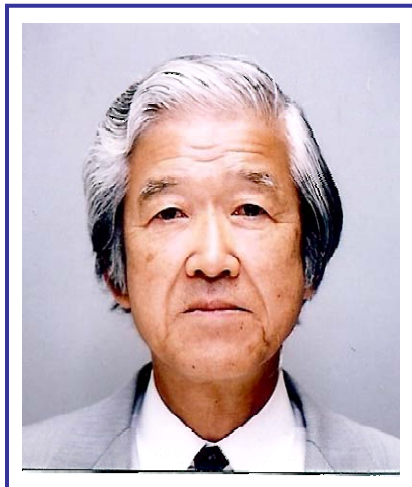
東京大学 大学院人文社会系研究科・文学部 准教授 鈴木 淳 氏

（概要）『過去の災害からの教訓に学ぶため、関東大震災時の被災状況や当時の人々の対応を知り、今後の大規模災害にあたってどのようなことが起こり得るか、また私たちは大震災からどのように身を守れば良いかについて実践的な知識を学ぶ。』

- ・15:20～16:05 講座テーマ「家庭で職場で災害にどう備えるか」

危機管理アドバイザー 国崎 信江 氏

（概要）『大規模地震発生などの自然災害の切迫性が高まっている中で、防災対策の実効性をこれまで以上に高めることが急務となっている。家庭で職場で災害にどう備えるかべきか、どのようなことができるのか、有効なのか、女性ならではの立場・視点から、そのための課題と方策を学ぶ。』



◆講演テーマ「歴史に学ぶ震災への備え」

特定非営利活動法人 防災情報機構会長 伊藤 和明

科学番組ディレクターを経て、1978年から2000年までNHK解説委員として、自然災害、宇宙と地球の科学、地球環境問題などの解説・評論につとめる。

政府関係委員としては、中央公害対策審議会委員、消防審議会会長、地震調査研究推進本部政策委員会委員、社会資本整備審議会河川部会委員、地球環境研究等企画委員会委員などを歴任。

著書：「地震と噴火の日本史」、「日本の地震災害」、「火山噴火予知と防災」、「津波防災を考える」、「自然とつきあう」ほか。

中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」座長



◆講演テーマ「防災に対して、いま求められている女性像とはどのようなものか」

富士常葉大学 大学院 環境防災研究科
教授 重川 希志依

東京理科大学理工学部卒業。（財）都市防災研究所主任研究員、同研究部長を務めた後、平成12年、わが国初の防災を専門とする学部、富士常葉大学環境防災学部にて助教授として就任。平成15年から現職。環境防災、都市防災、災害弱者対策、防災教育、市民の防災力向上等、防災分野の幅広いテーマに造詣が深い。

中央防災会議委員

中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」委員

地域安全学会副会長、地震調査研究推進本部政策委員会委員など、各種委員会委員、学会理事等



◆講演テーマ「地域の防災の力を高めるために」
日本放送協会 解説主幹山崎 登

1954年長野県大町市生まれ。1976年NHK入局。盛岡、佐賀、長野局で勤務。1988年東京の報道局社会部の災害班に所属。1991年「特報・首都圏」キャスター。1995年阪神・淡路大震災を取材。1998年東京報道局社会部、災害班デスク。2000年NHK解説委員（自然災害と防災担当）。イラン地震、阪神・淡路大震災、台湾地震、有珠山噴火、三宅島噴火、東海豪雨災害、新潟県中越地震、ニューオリンズのハリケーン災害、新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震などを取材。

（著書）「災害情報が命を救う～現場で考えた防災～」
（近代消防社）

中央防災会議「首都直下地震避難対策等専門調査会」委員

中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」委員



◆講座テーマ「地震発生のメカニズム、どこで、どんな大地震が発生するのか」

東京工業大学 大学院総合理工学研究科
人間環境システム専攻 教授 翠川 三郎

専門は地震工学、特に、大地震による震度分布や被害分布の予測、リアルタイム地震情報システム、リモートセンシングによる早期被害状況の把握などを研究している。近年は、市民の防災意識喚起のための地震マップの作成や普及に努め、行政と協力して地域での防災キャラバン講座も実施している。

中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」委員
地震調査委員会「強震動評価部会」委員



◆講座テーマ「過去の災害に学ぶ（「関東大震災に学ぶ）」

東京大学 大学院人文社会系研究科・文学部
准教授 鈴木 淳

1962年東京都新宿区生まれ。東京大学文学部国史学科卒。日本近代史、特に明治の社会経済史が専門。

著書として『明治の機械工業』、『日本の近代15 新技術の社会誌』（中央公論新社）、『日本の歴史20 維新の構想と展開』（講談社）、防災関係では『町火消たちの近代－東京の消防史』（吉川弘文館、歴史文化ライブラリー80）、『関東大震災－消防・医療・ボランティアから検証する』（筑摩書房、ちくま新書507）がある。

中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」委員
同1923関東大震災第2編分科会主査



◆講座テーマ「家庭で職場で災害にどう備えるか」
危機管理アドバイザー 国崎 信江

女性として、母として「子どものいのちを守る」研究を中心に独自の視点で防災・防犯対策を提唱している。講演、執筆、プログラムコーディネートなどの活動を行う傍ら、中央防災会議「首都直下地震避難対策等専門調査会委員」、文部科学省「地震調査研究推進本部政策委員会委員」などを務める。また、NPO国境なき技師団の一員として、海外での防災教育活動なども行なっている。おもな著書に『地震からわが子を守る防災の本』（リベルタ出版）、『犯罪から子どもを守る50の方法』（ブロンズ新社）、『地震から子どもを守る50の方法』（ブロンズ新社）、『サバイバルブック－大地震発生その時どうする?』（日本経済新聞出版社）などがある。

中央防災会議「首都直下地震避難対策等専門調査会」委員